

第1回健康寿命日本一おおいた創造会議 委員等の主な意見

・今回、健康アプリ「おおいた歩得」の協力企業として参加したところ、大きな販促効果があったので、来年度以降も継続して協力していきたい。

・小学校で「うま塩給食の日」として「うま塩からあげ」を子どもたちに食べてもらったところ、大変おいしく、喜んでいた。このような取組が家庭にも広がっていけば良い。

・市民のみな皆さんと密着した形で、減塩運動に取り組んでいる。減塩運動だけではなくて、低栄養予防の料理教室。そして、子ども、親子対象の料理教室などを通じて、健康増進を推進している。

・高等学校で大分県が目指す「健康寿命日本一」の実現に向け、課題研究として、「うま塩レシピ」の研究、開発を行った。この結果、普段の食生活で、私たちがいかに塩分を摂っているかということが分かった。

・昨年11月23日に「大分スポーツ交流フェスティバル2017」を実施した。このイベントは健康やスポーツのきっかけづくりになれば思いで開催した。今後も継続して開催したい。

・昨年9月23日に「すこやか家族博覧会」の中で、「健康寿命日本一、一日まちの保健室」として、健康チェックコーナーを行った。看護職にとっては地域住民の方と直接触れ合える、私たちどもにとってもとても良い機会ですし、来年度もぜひ参加していきたい。

・昨年12月15日に、大分大学市民シンポジウム「目指せ！健康寿命日本一大分」を開催した。参加者からは「非常に分かりやすかった」とか「内容を早く実行してみたい」といった意

見も多く、大変有意義な会であった。今後、県内各地でも、医学的立場からこの「健康寿命日本一」に役立つような講演会・講習会等々を開いていきたい。

- ・新聞紙面掲載キャンペーンをきっかけに、健康経営という言葉が県内でも徐々に浸透をしてきたのではないかな、と思っている。引き続き、関係団体の皆さまとのリレーションを深めて、理解・促進を行っていきたい。

- ・労働行政は、企業で働く方々がどうしても中心にならざるを得ないわけだが、働く方々の健康確保といたしますのは労働災害の防止と並んで、非常に重要な課題となっている。

- ・保険者の立場から、一社一健康宣言事業所での訪問事業活動の強化を行い、現役世代一人一人が健康づくりに関心を持ち、自発的な取組により健康を維持・増進していただけるよう、推進していきたい。

- ・商工会議所では、関係団体と連携して生産性や企業イメージ向上につながる経営健康事業所の登録認定を推進していく。また、経営指導員のアドバイザー的な支援により、健康経営の普及に努めることができないか検討していく。

- ・栄養士会では、20歳から50歳ぐらいまでの方たちの健康が少し危ない、というところを大変心配しており、「減塩3g」「野菜350g食べましょう」ということを目標に今後も頑張っていく。